

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 21 日現在

機関番号：20105
 研究種目：基盤研究(A) (一般)
 研究期間：2013～2015
 課題番号：25242005
 研究課題名(和文) タイム・スペースシェアリング型地域連携による地域創成デザイン研究

 研究課題名(英文) Revitalization Design for Regional Areas focused on Community Cooperation using Time Space Sharing Model

 研究代表者
 蓮見 孝 (HASUMI, Takashi)

 札幌市立大学・デザイン学部・教授

 研究者番号：60237956

 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 34,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、大都市と周辺過疎市町村とのTSS(Time Space Sharing)型地域連携、すなわち、大都市と周辺市町村それぞれの住民が時間や空間をシェアすることにより、過疎市町村の地域創生を図ることを目的に実施された。事例として札幌市と壮瞥町を選定し、アンケート調査や二地域居住実証実験を通じて具体的にどのようなTSSの仕組みが有効であるのかを検討した。また、補足的な研究として寿都町等複数の過疎市町村を取り上げTSSの具体的な手法についての試行を行った。その結果、地域創生へのTSSの有効性の確認、地域創生のキーとなる要素の抽出や、ステークホルダーの役割についての指針等を示すことができた。

研究成果の概要(英文)：This study aims to revitalize regional areas, i.e., depopulated towns and villages, by sharing the inhabitants' time and space of depopulated areas with the inhabitants of the neighboring metropolitan area. This model is known as 'Time Space Sharing (TSS)'. The inhabitants of Sobetsu-cho and Sapporo-city participated in the experiments to investigate the influences of the TSS model on regional revitalization. A questionnaire as well as a practical experiment were used to clarify the effects of the TSS model to the inhabitants of the depopulated area (Sobetsu-cho), by sharing their time and space with the inhabitants of the big city (Sapporo-city). Furthermore, to confirm the validity of the TSS model, additional experiments were conducted in other depopulated areas such as Suttso-cho. The results showed that (1) the validity of TSS model, (2) the effective factors to regional revitalization, (3) the role of stakeholders.

研究分野：地域創生デザイン

キーワード：地域創生デザイン 二地域居住 タイムスペースシェアリング Art & Design 少子高齢化 過疎化

1. 研究開始当初の背景

本研究は、現在わが国で急激に進む少子高齢化と人口減少による過疎化、そして地域産業の衰退、大都市への一極集中に伴う周辺地域の衰退への有効な対応策の一つとして計画された。特に研究チームの地元、北海道は、その傾向が顕著で、ベストセラーとなった『地方消滅』(1)では「未来日本の縮図」と形容され、早急な対応が求められている地域である。また、2014年5月には日本創成会議からの提言が、さらに同年9月には、政府による「まち・ひと・しごと創生本部」の設置がなされるなど国を挙げての取り組みも強化されつつある。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、上記1項で述べた地域社会の負の連鎖を食い止め、持続的にバランスの良い発展をとげていけるような地域社会のあり方を模索するものであり、その方策として、地方市町村と大都市がそれぞれの強みを活かしながら交流を活発化させることにより、総合的に地域の魅力創出と地域力の強化が図れるようなデザインプログラムの実践を試みたものである。

(2) 具体的には、大都市(拠点都市)と周辺の過疎市町村(周辺地域)とのTSS(Time Space Sharing)型地域連携を基本コンセプトとして上記課題の解決を試みた。TSSとは、大都市と過疎市町村がそれぞれの魅力を活かした役割分担を明確にし、その上で、両地域の住民が時間や空間をシェアすることにより、両地域住民間の相互交流を通じた人的ネットワークを構築し、周辺地域の衰退を食い止めようというものである。本研究ではTSS型地域連携の有効性の検証と、最終的には地域創生デザイン学の構築を目指した。

3. 研究の方法

(1) 地域創生手法の検討を目的とした住民への大規模アンケート調査

大都市として札幌市中央区、同南区、道内

周辺過疎市町村として、三笠市、寿都郡寿都町、沙流郡平取町、虻田郡喜茂別町の計19,151戸にポスティングによりアンケート用紙を配布した。実施時期は平成25年12月～同26年1月である。アンケート内容は、年齢・性別など回答者の属性、居住地に関する印象、都会・田舎への一時居住に対する関心度合、地域の活性化への参画の意思、地域イベントの形態、回答者の価値観等についての質問項目で構成した。

(2) 複数市町村での、Art&Designによる地域創生活動実証実験

平成25年度に北海道内の5地域(札幌市、三笠市、寿都町、喜茂別町、平取町)をフィールドに、Art & Designによる地域創生活動およびその評価を行った。

(3) 大都市(札幌市)と周辺過疎市町村(壮瞥町)間の短期居住TSS実証実験

平成25～26年度にかけ、札幌市民と壮瞥町民の両者が参加し、地域創生の方法について、ディスカッションを行う「井戸端寺子屋ワークショップ」を3回、外部講師を招いて学習するフォーラムを2回開催した。これと並行して両地域間の短期居住体験実証実験を実施した。この実証実験は、札幌市に1箇所、壮瞥町に2箇所の住居を準備し、居住体験者には「開始時インタビュー」「日常生活ガイダンス」「指定イベントへの参加」「日々のメール報告(日報)」「週報」「居住体験終了報告書執筆」「終了時インタビュー」を求めた。

また、最終年度には、壮瞥町において、将来の地域創生の担い手となる20代の若年世代を中心とした短期居住ワークショップを実施した。参加者は札幌在住の本学学生その他、東京在住の学生、台湾在住の台湾人学生で、複数の混成チームを編成し、壮瞥町での地域住民を交えたフィールド調査、および現地宿泊施設でのワークショップを通じて、具体的な

TSS型二地域居住システムの提案を目指して活動を行った（図1参照）。

4. 研究成果

(1) 地域創生手法の検討を目的とした住民への大規模アンケート調査

アンケート調査の結果、大都市、周辺過疎市町村それぞれの住民の意識の現状から、有効な地域創生手法の方向性、地域活性化を担う可能性のある人材の属性（世代、価値観等）等の概要を把握することができた。

(2) 複数市町村での、Art&Design による地域創生活動実証実験

札幌市ではグリーンカーテンプロジェクトおよび賑わい創出を狙ったアートプロジェクト、三笠市では炭鉱遺産を活用した地域の魅力発見活動を対象とした評価研究、寿都町では風車アートプロジェクト、喜茂別町では情報発信ツールとしてのお弁当プロジェクト、そして平取町では鹿革を活用した商品開発プロジェクトを実施した。これらの活動成果を研究的・理論化的活動を通じて整理し、Art & Designの力に含まれる地域創生に役立つ4つの力「起爆力」「求心力」「発信力」「継続力」と、地域創生のキーとなる「人」「事」「場」「物」の4つの要素の存在が仮説として構築された。また、図2に示すように、地域創生プロセスを「交流期」「創造期」「発信期」「運用期」の4ステージに分類し、「地域住民」「大学」「行政」「短期滞在者」「長期滞在者」といったステークホルダーが各ステージにおいて地域創生にどのような役割を果たすべきかについて指針を示した（図2参照）

(3) 大都市（札幌市）と周辺過疎市町村（壮瞥町）間の短期居住TSS実証実験

居住体験を通じて、地域創生の要素として事前に抽出した「人」「事」「場」「物」以外に「日常」という新たな要素が重要であることが明らかとなった。客観的な分析手法とし



図1 若年層を対象とした短期居住ワークショップ

	地域住民	大学	行政	短期滞在者 (観光客)	長期滞在者 (シェア客)
[A] TSS魅力発見期 交流期	地域の魅力の素の収集	アートカデザイン力による集客	交流の場の提供	短期イベントへの参加 ↓ 感動体験	
[B] TSS魅力育成期 創造期	地域の魅力の素の創造	アートカデザイン力による集客 地域の魅力の素の評価/創造	ビジネスソースとしての評価	短期イベントへの参加 ↓ 該当地域の応援団	
[C] TSS魅力発信期 発信期	地域の魅力を活用した運用テスト(サービス)	サービス適用のためのアートカデザイン力の活用	運用テストのインフラ的サポート	サービスの利用体験 ↓ 該当地域の応援団 口コミ担当	
[D] TSS循環期 運用期	地域の魅力を活用した経済活動		経済活動のサポート	観光リピーター	地域への定住

図2 地域創生の段階とステークホルダーの役割



図3 短期居住のプロセスと満足度評価

て、今回試行した「ワクワク感」の時系列評価方法の有効性も検証することができた(図3参照)。また二地域居住を広く実現する際のポイントとして、居住実験の参加者募集時の障害として浮かび上がったいくつかの要因(二地域間の距離、生活インフラの差異、経済的負担等)の解決が課題として抽出された。

(4) 今後の発展的研究に向けての総合的成果

特に上記(3)項で述べた短期居住実証実験成果にこの3年間の研究成果を合わせて総合的に分析・考察した結果、大都市においては立地する大学を核に大学の持つ機能や特性(教育、研究、若年層を中心とした学びの場等)を最大限活用し、また、周辺過疎市町村においては、地域創生に意欲のある住民を核に、遊休施設や観光等の地域資源を活用することにより、新たなスタイルの住民参加型PBL(Project Based Learning)プログラムを提供することが、地域活性化に向け新たなビジネス手法となる可能性を見出すことができた。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計5件)

上田裕文・高橋友香、アートプロジェクトによる風景認識の変化とまちづくりへの参加意欲に関する事例研究、ランドスケープ研究、78(5):703-706、2015(査読有)

原俊彦、地方創生の結婚・出生促進効果【統計ウオッチング-人口・社会統計】、統計、66(5):56-59、2015(査読無)

原俊彦、新しいステージに向かう超高齢社会【視点論点】、開発こうほう、622:20-21、2015(査読無)

原俊彦、人口減少社会のゆくえ『地方消滅』報道以降の動き【往来】、現代社会学研究、28:35-44、2015(査読無)

原俊彦、地方創生における少子化対策の在り方とは?、SPACE NIRA(公益財団法人総合研究開発機構)、2015(査読無)

[学会発表](計7件)

城間祥之、蓮見孝、酒井正幸、柿山浩一郎、中原宏、原俊彦、石井雅博、Art & Design

を活かした地域創生手法に関する研究短期居住体験者の日報のテキストマイニング分析、第17回日本感性工学会大会予稿集:1-4、2015 2015年9月、文化学園大学(東京都特別区)

酒井正幸、蓮見孝、城間祥之、上遠野敏、中原宏、原俊彦、Art & Design を活かした地域創生手法に関する研究-1第1報-地域創生デザイン学の確立のためのTSS研究、日本デザイン学会誌 第62回研究発表大会概要集 CD-ROM:32-33、2015年6月、千葉大学(千葉市)、

柿山浩一郎、片山めぐみ、石井雅博、山田良、斉藤雅也、上田裕文、Art & Designを活かした地域創生手法に関する研究-2第2報-地域を対象とした研究における仕掛けづくり、日本デザイン学会誌 第62回研究発表大会概要集 CD-ROM:34-35、2015年6月、千葉大学(千葉市)

齊藤雅也、中村千世萌、地域で取り組むグリーンカーテン栽培の住民意識と行動、日本デザイン学会誌第62回研究発表大会概要集 CD-ROM:36-37、2015年6月、千葉大学(千葉市)

上田裕文・高橋友香、アートプロジェクトによる風景認識の変化とまちづくりへの参加意欲に関する事例研究、日本造園学会全国大会、2015年5月 東京大学(東京都特別区)

片山めぐみ、地域情報伝達・コミュニケーションツールとしてのお弁当デザイン感性フォーラム札幌 2015年3月 札幌市立大学(札幌市)

柿山浩一郎、城間祥之、中原宏、原俊彦、石井雅博、蓮見孝、Art&Design を活かした地域創生手法の検討を目的とした住民調査、日本デザイン学会第61回春季研究発表大会概要集 CD-ROM:62-63、2014年7月、福井工業大学(福井市)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

蓮見 孝 (HASUMI Takashi)
札幌市立大学・デザイン学部・教授
研究者番号：60237956

(2) 研究分担者

酒井 正幸 (SAKAI Masayuki)
札幌市立大学・デザイン学部・教授
研究者番号：00433128

山田 良 (YAMADA Ryo)
札幌市立大学・デザイン学部・准教授
研究者番号：00452988

石井 雅博 (ISHII Masahiro)
札幌市立大学・デザイン学部・教授
研究者番号：10272717

中原 宏 (NAKAHARA Hiroshi)
札幌市立大学・デザイン学部・教授
研究者番号：20290679

齊藤 雅也 (SAITO Masaya)
札幌市立大学・デザイン学部・准教授
研究者番号：20342446

柿山浩一郎 (KAKIYAMA Koichiro)
札幌市立大学・デザイン学部・准教授
研究者番号：30410517

上田 裕文 (UEDA Hirohumi)
札幌市立大学・デザイン学部・講師
研究者番号：30552343

上遠野 敏 (KATONO Satoshi)
札幌市立大学・デザイン学部・教授
研究者番号：40214415

片山 めぐみ (KATAYAMA Megumi)
札幌市立大学・デザイン学部・講師
研究者番号：40433130

城間 祥之 (SHIROMA Yoshiyuki)
札幌市立大学・デザイン学部・教授
研究者番号：90113571

原 俊彦 (HARA Toshihiko)
札幌市立大学・デザイン学部・教授
研究者番号：00208654 (平成 26 年度より
研究分担者)